



国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会長■ 小林 透 ■幹事■ 廻 辰一郎 ■会報委員長■ 石井 慎一
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2016-17年度

第2584回

平成29年4月21日(金) 点鐘12:30 《曇り》

- ◆ロータリーソング『手に手つないで』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- ◇ (有)高秀牧場 代表取締役 高橋 憲二様
- ◇ 次年度地区ローターアクト委員会委員長
丸山 泰典様 (銚子RC)

◆会長報告挨拶及び報告 伊藤 和夫直前会長

先週、広島の親睦旅行に参加された皆様、本当にご苦労様でした。小林会長から、本当に楽しい親睦旅行で、参加していただいた方にくれぐれもお礼を言ってくださいとのことでした。

安芸の宮島へ行ってつくづく思ったことですが、私は3回くらい宮島へ行っておまして、1回だけ潮の干満の引いている時がありまして、朱い鳥居がそっくり砂地まで見えていたことがありました。先日は、厳島神社の中を歩いている時に満ち潮で少しづつ上がってきている感じでした。砂地を見ますと、穴がぼこぼこ開いているところがあって、そこにはカニがいるんだそうですが、潮が上がってきている状況を垣間見ることができました。あと一度は本当に満ち潮で、何度行っても良いなと思いました。

また、先日はたまたま厳島神社で結婚式をやっていました、美しい新郎新婦を見ることができました。

それから、本田会員は海の仕事の関係上、安全祈願ということで毎年参拝しているとのこと、50数回行っているそうです。朝、バスに乗る直前にどんよりとした雲が覆い大雨が降ってきたのですが、宮島に着いた頃には晴天。何と、本田会員が宮島を訪れた際、50数年間、一度も雨が降ったことがないそうです…。

今日は、斎藤会員のお仲間、江沢会員の地域の高秀牧場さんの卓話を楽しみにしております。宜しくお願い致します。

◆ご挨拶

次年度地区ローターアクト委員会委員長 丸山泰 典様

皆様はじめまして。次年度青少年奉仕委員会でこちらの三神先輩と一緒に活動することになりまして、これから1年間ご指導いただくことにご縁あり、お呼びいただきました。まだロータリー歴が浅く、若輩者ではございますが、これからロータリー活動を一生懸命頑張りたいと思いますので、皆様、ご指導の程どうぞよろしくお願いいたします。

銚子ロータリークラブから参りました。本日はよろしくお願ひ致します。

◆委員会報告

親睦活動委員会より (清水 清子会員)

「千葉ロッテマリーンズを応援しよう！その3」のご案内
 日時:8月2日(水) vs 日ハム戦
 3時:練習見学、記念撮影、6時15分:プレーボール
 皆様のご参加をお待ちしております。

◆幹事報告

- ◇ 4月28日(金)は定款により、5月5日(金)は祭日のため休会です。次回の例会は、5月12日(金)となります。

◆ニコニコボックス報告

《小林 透会長・廻 辰一郎幹事》

いつの間にか葉桜となっていました…。

先日の広島旅行へご参加の皆様お疲れ様でした。

広島市は、世界史上初めて爆撃された都市として世界的に有名ですが、人口は中国・四国地方の中で第1位、全国の市では10番に多く、洗練された都会的な街でした。また、お天気にも恵まれ、瀬戸内海の海がきらきらと輝いていました。

ゲストの皆様、ようこそお越しく下さいました。高橋様にはのちほど卓話をよろしくお願い申し上げます。

《江沢 一男会員》

高橋さん、今日はお忙しい中を有難うございます。娘共々にお世話になっています。本日の卓話、宜しくお願い致します。

〈杉本 峰康職業奉仕委員長〉

先日の広島旅行への多くのご参加ありがとうございました。松尾親睦委員長、河原副委員長の急な欠席にもかかわらず親睦委員の皆様のおかげで楽しい旅行にすることができました。最後になりますが、寸志をいただいた多くの皆様本当にありがとうございました。

〈吉田裕成会員、斎藤昌雄会員〉

先日の広島旅行、親睦委員の皆様、廻幹事さん、ご苦労様でした。おかげさまで大変楽しい旅行になりました。

〈斎藤 昌雄会員〉

高橋様、本日の卓話よろしくお願ひ申し上げます。

い従業員の子たちです。江沢さんの娘さんがミルク工房で働いてくれているのですが、すごく良い仕事をしてくれて本当に助かっています。私の次男は、後継者として大学をこの3月に卒業しまして、今月4月10日にカナダへ研修に旅立ちました。



私が酪農をやっている最も好きなことは、乳牛の品評会です。この品評会でいろんなことを勉強させてもらいました。一生懸命やっていて、今までもらった数々のトロフィーがあります。この牛はジョイラックミックスという名前の牛なのですが、全日本チャンピオンになったことがある牛です。

全日本ホルスタイン共進会という全国大会があったのですが、そこでうちの牛が2頭千葉県代表となったので、1頭は息子が引いて、1頭は私が引きました。この全日本ホルスタイン共進会というのは牛屋のオリンピックといわれています。

5年に1回開催されるのですが、前々回が、ちょうど東日本大震災の年で中止になってしまったのです。その時に全日本ホルスタイン共進会を目指していて、その年にすごく良い牛が出来ていたのに、中止になったのがすごく残念でした。この北海道の大会は10年ぶりに行われた全日本ホルスタイン共進会だったので。北海道の早来というところにある会場なんですけど、乳牛改良の私たちにとって聖地とされている所なのです。学生時代から何十回とその場所には足を運んでいていつかリンクの上に自分の牛を立たせたいというのが私の夢だったんですが、そのリンクに自分の牛を立たせて、1頭は息子が引いて1頭は私が引いたという夢が実現できたその瞬間の写真です。

私がずっと取り組んできている循環型農業とかいろいろあるのですが、この発表の内容でタイトル「国産飼料資源自給率向上への挑戦」というタイトルで、去年、全国有料畜産経営技術発表会というのがありまして、このタイトルで発表させてもらって最優秀賞をもらいました。

この国産飼料資源というのは、日本の畜産農家は土地が狭いので海外からの餌に依存しています。鶏もそうですし、豚もそうですし、牛も海外からの輸入の飼料に依存しているところがあります。そうすると、どんなことが起こるかという為替の影響等でいろんな影響で餌が高くなったり安くなったりして経営が安定しないということがあります。ここところいろんな為替で今円安になっているので、餌が高くな

本日のニコニコボックス	10,000 円	累計	316,000 円
金の箱	315 円	累計	15,290 円

◆出席報告 (会員数48名)

出席者数	欠席者数	ピンター	4/7 修正出席率
26 名	22 名	2 名	79.17 %

千葉市内例会変更のご案内 [メニュー](#) [キャップ](#)にご利用下さい。

千葉RC	月	5/1	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	5/2・5/16	センテイタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	5/2・5/16	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	5/24	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水		ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木		三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	5/18・5/25	京成ホテルミラマーレ

本日の卓話

演 題⇒「牛から教えてもらった大切なこと」

卓話者⇒ 有限会社高秀牧場

代表取締役 高橋 憲二様



皆様、こんにちは。
「牛からもらった大切なこと」というタイトルですが、小学生みたいで恥ずかしいかなと思いましたが、牛から教えてもらった大事なことだと思って、未だに守り続けていることですので、そこをご紹介させていただきたいと思います。

テーマに入る前に高秀牧場の規模ですが、乳牛150頭、畑は15畧、総面積では23畧あります。チーズ工房は平成24年4月にオープンしまして、ミルク工房は28年6月からオープンしています。

私の娘は、チーズ工房とミルク工房の責任者として一生懸命働いてくれています。牧場のスタッフですが、皆さん若

ったり、どこかが干ばつだったとかで餌が上がってしまったりしています。2008年位から燃料のガソリン等の原油が上がりまして、アメリカではバイオエタノール政策というのを打ち出して、穀物からアルコールを造って車を走らせるという政策を打ち出したのです。穀物が工業用のアルコールを造る原料として使われたので、ものすごく値段が上がってしまいました。どうにも経営していけないという時代が2008年にありました。その時に私は、アメリカに行ってどういう状況なのか視察に行ってきたのですが、今から35年くらい前にカナダに研修に2年半ほど行かせてもらいました。私が行っていた牧場は、畑が2500畝というものすごく広い面積で、人が食べるトウモロコシも生産していましたし、麦も生産していましたし、当然牛の餌も生産していました。収穫したらすぐに出荷してしまっていたのです。

しかし、2008年に視察に行った時には、農家にもものすごく大きなサイロを建てていて、そこに貯蔵して穀物相場を見ているんです。それで低い時には出さないのです。出荷しないでずっと蓄えて高くなったら出すんです。地球の温暖化で農地の砂漠化も進んでいて農地自体が少なくなっているのです。人口も発展途上国を中心にどんどん増えていて、中国も農産物輸出国だったのに今は大量の輸入国になっています。これは、自分で餌を作らないと経営していけないんじゃないかと感じて、それから牛の食べる餌を自分で作ろうと、自分で作った餌で自分の牛を飼おうと思いました。ほぼ無謀な考えだと思いました…。北海道の人でも牧草は自分で作っているんです。しかし、トウモロコシや麦とかの穀物は輸入に頼っているのです。でもその穀物までも自分たちで作ってみようというチャレンジを2008年から始めました。今うちの牛たちが食べている餌は米です。今までは海外からのトウモロコシとか麦とか輸入の牧草を餌として与えていたのですが、今はお米が主体になってきました。

その取り組みをご紹介します。自分の畑を利用して牧草をロールして、トウモロコシを栽培してハーベスタという機械で収穫してサイロに詰めます。この牧草をロールして、ラップし貯蔵して牛に食べさせるようにしています。

いすみは、主な産業は稲作です。そこに畜産農家があるということなので畜産農家は餌が高くて経営が苦しくなっていて稲作農家は米価がどんどん下がって経営が厳しくなってきたという時代で、ここを何とかうまく連携をとってお互い良くなることできないかと20数年前から模索しています。匠の会は、牛の尿を液肥化したものを米作りに使って、国吉米の万喜というブランド米になっています。このお米は食べてみても本当に美味しいのですが、いすみの稲作農家の人は、食味が落ちた、食味が落ちたと言っていたんですが、よくよく話を聞いてみると、昔はどこの家でもどこの農家でも3~5頭の牛を飼っていたんです。その牛たちの世話をした後で学校へ行ったり、会社へ行ったりしていたそうなんです。その1年間牛の糞をためておいて田んぼに入れていたそうなんですけれども、面積がどんどん大きくなってきて仕事が忙しくなって牛を飼っていてもあまり採算がとれなくなったので牛がだんだんいなくなると、ずっと化学肥料でお米作りしていたんです。

このアイデナエンタープライズには410頭の牛がいますので、その糞とか尿を使って稲作農家に何か貢献できるこ

とがあるんじゃないかと考え、入れだしてからどんどん食味が良くなってきて、ブランド化したことによって一俵2000円高く農協で買い上げてもらえるという仕組みを作りました。

以前は、高秀牧場内だけで循環型農業、うちの牛の糞尿を畑に戻して作物を作っていることをやっていたのですが、今は地域循環型、地域全体で畜産農家で出たものをこうし農家で堆肥を供給して、そこで食べさせてとこういう循環が地域でできるようになっています。

お米作りは、普通は年1回ですよ。田んぼは、一作しか作らないのですが、私たちのいすみ地域では、水田フル活用といって、年に3回、田んぼから餌の飼料、お米を収穫させてもらっています。米が3回ではないのですが、まずここで稲を作って田植えしてから7月8月に稲をそのまま茎ごと収穫しています。そして、ロール状のものをラップしてラップしたものを飼料として使います。その後、畜産農家から堆肥を持ってきて田んぼに畑に堆肥を入れます。その後、稲作農家側が堆肥を入れ終わった田をおこします。牧草の種を蒔きます。その時に2種類の種を蒔いてもらっています。えん麦という麦とイタリアンライグラスという牧草の種の2種類を蒔いてもらっているのですが、そうするとえん麦は11月に収穫できます。その後4月・5月になったら田植え前にイタリアンライグラスの牧草を収穫して貯蔵してこの牧草を刈り終わるとまた田植えをするというかたちで、年に3回収穫させてもらっています。それが水田フル活用ということですよ。

稲作農家側のメリットですが、主食用の米を作った場合10畝当たり、9万480円にしかならないのですが WCSという茎ごと刈り取った牛の飼料を作ると約14万円くらい、飼料米については14万を超えます。10畝当たりの収穫ですから、うちの方の稲作農家の人たちがどんどん面積を大きくしています。一番大きくしている人で70畝やっていますので、10畝違うと70畝だと700倍ですからものすごく収入が違ってきます。稲作農家の人たちがこれだけ収入が増えてきますからすごく利益が出ています。それを私たちはもう一度設備投資してもっと1集団当たり100畝位の面積でできるように体制を整えてくださいとお願いしているので、今、稲作農家の人たちがどんどん新しい機械を導入して設備投資して規模拡大を図っているところです。

畜産農家側ではどういうメリットが出ているのかというと、米を使うことによって、うちの今の餌代は、1日890円が1頭当たりのえさのコストです。都府県の1日1頭当たりの飼料費が1,245円ですから、そこから見るとえさのコストがすごく下がっているんです。お互いに畜産農家側もメリット出ているし稲作農家側もメリット出ているということです。

高秀牧場でやっている酪農に対する理解醸成活動として、牧場の体験、牛ってこんな生き物だよ、酪農ってこんな仕事だよ、牛乳ってこういう風に生産されるんだよと、子どもたちを対象に食育活動をしています。

この独自産業化部門の展開というのは、チーズですとか、ミルク工房を作ってジェラートを販売しています。

牧場の情報発信というのは、ホームページを作ってフェイスブックやツイッターを使って、いついつ何日にイベントがありますよ、こんな活動をしていますよ、という情報発信をするようにしています。

また、新たな展開として6次産業化に挑戦して、24年にチーズ工房をオープンしました。3年目の26年にジャパンチーズアワードに初めてチーズを出品し、「まきばの太陽」というチーズが金賞を受賞しました。昨年には、フランスで行われた国際的なチーズコンテストで「草原の青空」というブルーチーズがスーパーゴールドメダルという賞を受賞しました。28年のジャパンチーズアワードでは、「まきばの太陽」が金賞と外国人審査員賞を受賞し、来年また国際チーズコンテストへの出品をしたいと思います。

このチーズが、フランスで賞とってから足りなくなってしまうんですね。最大で8ヶ月～9ヶ月待ち、予約してもらってからという、そういう状況になってしまいました。こうなると、あそこにチーズを買いに行っても全然ない、いつも売り切れている、そのような話が出てきてそれはまずいなと思って、それでジェラート工房をうちの娘がやりたいと言っていたので去年の6月にジェラート工房、ミルク工房として、カフェは乳製品を使った軽食、ジェラートを販売しています。食材は地元の良い食材を使って作ってもらっています。

「牛に教えてもらったこと」をお話します。

私が牧場をやっている一番大事にしていることは、楽しむと言うことを大事にしています。いろんな業績とか売り上げとかも大事かもしれませんが、一人一人が楽しんで仕事してくださいと言っています。良い牛を作るというのは一生懸命愛情を持って育てるのは当たり前のことなのですが、この牛が順調に良い牛に育つように環境を整えてあげることが大事なのです。そういうふう環境を整えて牛を育てていくことが大事なのですが、若かりし頃、スタッフの子たちにもっとしっかり仕事しろとか、もっと早く仕事しろとか、結構言っていました。自分のスピードに従業員の子たちが付いてこれなかったり落ち込んでいたりして、一生懸命出来ない時があると思うんですけど、もっとちゃんと仕事しろよって言うていたことがあったのです。

ある日、その牛を世話している時に、あれちょっと待てよ、牛を育てる時に、おまえもっと良い牛になれ、良い牛になれて口で言ったって全然良い牛にならないですよ。そんなこと言わなくてもその牛が育ちやすいような良い牛になるように環境を整えてあげることが大事なんだと、ハッと思ったんです。私がもっとちゃんと仕事しろとか、もっと早く仕事しろとか言っていたのって、自分が牛を育てている時に良

い牛になれ、良い牛になれて口で言ったのと同じじゃないのかって、この子が一生懸命働けないのは私が作っているこの環境が悪いんだと思うようになったのです。

それからは従業員のトラブルはなくなりました。もっと一生懸命働きなさいと言っていた時よりさらに一生懸命働いてくれるようになったのです。それでこの子が失敗したのはこの子のせいではなくて、私の教え方が、この子の能力が発揮できないような環境を作っている私が悪かったのかなと思うようになり、すごく良いことを教えてもらったなと思っております。

チーズの賞をとりましたが、すごくチーズが好きでチーズに興味がある子にこの子にどうしてあげたら良いかなと思って、チーズ工房を作ったんです。そうしたら、一生懸命研究に研究を重ねてその結果が賞だったりするわけですよ

ね。その人の能力を発揮させるとか潜在能力を出してあげるのはこちらの責任かなと牛に気付かせて教えてもらいました。

あともう一つ、うちにウイニークリットという牛がいたんです。その牛は存在感のない牛で地味な牛でした。でもうちに12年間いてくれて子どもを9回産んでくれました。地味で目立たない牛だったのです。だから私はその牛の記憶があまりないのです。この牛がもう寿命だなと思った時に市場への車へ積む時に書類を見たら12歳でした。え？こんなにこの牛は長くいてくれたのか……。9回も産んでくれる牛はなかなかいないんですよ。でもその牛は全然目立たないで乳も特別たくさん出るわけでもないのですが、毎年コンスタントに良い乳を出してくれて、病気にもならないので獣医さんにもかからないから全然目立たないんですよ。目立たない存在感の無い牛がうちの牧場ではすごく貢献してくれたんだなと思って、送る時に涙が出てきてしまいました。

それからは人の見る目が変わってしまいました。存在感が無くてまじめでコツコツやってくれる人はすごく貢献してくれている人で、自己主張が強く自分の意見をはっきり言ったりする人ってすごく良く見えたりするけれど、実は地味でまじめでコツコツやってくれる人の方が貢献してくれるんだなと気が付きました。

後は自分の利益だけを考えず、周りの人のことを考えて、お米の農家も利益が出るように周りの人のことを考えてやっていくことが仕事を順調にいくことだと学びました。

息子が海外研修から帰ってきたら新しい牛舎を建てさせようと思っています。牧場は汚くて臭うというイメージがありますよね。そういうイメージを払拭したいのです。きれいで美しい牧場を作りたいと思います。息子が考えることですので、息子には勉強をしてきてもらって、私と同じことをやる必要はない、自分でやりたいような酪農をやりたいと言っております。でも、きれいな牧場を建ててくださいよ！と、お願いしています。



第2585回例会

日時⇒ 平成29年5月12日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 会員ミニ卓話

第2586回例会

日時⇒ 平成29年5月19日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『障がい者の働く場である施設・

事業所の支援を目的とした廃電線リサイクル事業』

卓話者⇒三立機械工業(株) 会長 中根 昭様